

1 学習指導と評価の工夫・改善

公民科では、課題を設定し追究する学習を重視し、各科目においてそれぞれの特質に応じた諸課題を選択的に取り上げて考察させ、社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方を深めさせるとともに、現代の社会の諸課題と人間としての在り方生き方について主体的に考える力を一層養うことが求められている。

そのため、学習指導を進める際には、基礎的・基本的な内容に厳選し、教師が生徒一人一人の興味・関心、理解の状況等に応じて、きめ細かな指導を行うことが必要である。また、様々なメディアを通して情報を適切に収集、選択、処理し、有効に活用するなど、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習活動を取り入れることが大切である。

学習の評価においては、生徒一人一人のよい点や学習の到達の状況などを適切に把握するため、観点別学習状況の評価における4つの観点を基本として、目標に準拠した評価を一層重視することが大切である。また、計画、実践、評価という一連の活動を繰り返しながら、後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導と評価の一体化を進めることが必要である。

2 評価方法の改善・充実

(1) 評価計画の作成

ア 作成上の留意点

- 学習指導要領に示す教科の目標や内容から、年間の指導計画を作成し、それに基づいて「内容のまとまり（中項目）ごと」の指導と評価の計画を作成する。
- 年間を通して「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」、「知識・理解」の評価の4観点のバランスがとれるように配慮する。
- 1時間毎の授業において、多くの観点を設定するのではなく、内容に応じていくつかの観点を設定して評価する。
- 学習指導要領解説並びに国立教育政策研究所が作成した「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」を活用して、具体的な学習内容に即して「内容のまとまりごと」に「学習活動における具体の評価規準」を作成する。

○ 評価規準の作成に当たっては、「～させる。」というねらいから「～してい

～目標に準拠した評価の条件～

- ① 学習指導のねらいが明確になっていること（ねらいの設定）
- ② 学習指導のねらいが実現されたというのほどのような状態になっているかが具体的に想定されていること（評価規準の設定）
- ③ 学習指導のねらいが実現されたかどうかを評価する方法、手段が事前に準備されていること（評価方法・手段の準備）

る。」というように生徒が学習の結果として身に付けている具体的な状況を示しているようにする。この評価規準に達していると判断された場合は、「おおむね満足できると判断される」状況（B）と評価する。

イ 各教科の評価計画表の例

科目名	現代社会	大項目	(1)現代に生きる私たちの課題	中項目			
目標	現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して課題を設け、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究する学習を通して、現代社会に関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させる。						
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解			
内容のまとめと評価規準(大項目)	現代社会の諸問題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚している。	現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して課題を見いだし、多面的・多角的に考察し、いかに生きるかについて社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	現代社会の諸問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用し、学び方の技能を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の諸問題の現状や問題点、本質及び学び方について理解し、その知識を身に付けている。			
評価規準の具体例(大項目)	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題に対する関心が高まっている。 現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 現代社会の諸問題について自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して課題を見いだしている。 現代社会の諸問題について多面的・多角的に考察している。 現代社会の諸問題に対する国際的な取組や協力、自らの生活の在り方について社会の変化や様々な立場や考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から現代社会の諸問題について設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 現代社会の諸問題について設定した課題を追究し考察した過程や結果をレポートや報告書にまとめたり、発表などを行ったりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題について理解し、その知識を身に付けている。 現代社会の諸問題を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。 			
大項目	指導段階	学習活動	評価の観点			学習活動における具体的評価規準	評価方法
			関	思	技		
現代に生きる私たちの課題	ガイダンスとモデリング(2～3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 教師の実例の紹介を聞き、感想や関心をもったことや評価等をワークシートに記入する。 教科書や資料集等を参考にして興味・関心をもった事項について列挙し、ワークシートに記入する。 	◎			<ul style="list-style-type: none"> 教師の実例の紹介を聞き、感想や関心をもったことや、その理由を記入している。 興味・関心をもった事項について、教科書や資料集等を参考にして理解したことを記入している。 	ワークシート ワークシート
	課題設定(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 教師の助言を聞き、課題を設定するとともに、選んだ理由、課題追究学習の計画等についてワークシートに記入する。 	◎	※1		<ul style="list-style-type: none"> 自己とのかかわりに着目して主体的に追究できるような課題を設定するとともに、設定に至る過程や課題追究学習の計画等について、適切に記入している。 	ワークシート
	課題追究学習(3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 課題にかかわり、どのような資料をどのように収集し、どのように活用するかについてワークシートにまとめる。 			◎	<ul style="list-style-type: none"> 収集した諸資料の中から課題と適切に結びつけた資料を選び出し、その活用方法を記入している。 	ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々が課題追究を実施し、レポートや報告書にまとめ、発表準備をする。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> 課題追究に役立つ資料を多面的・多角的に考察して、作成している。 資料を活用し、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から課題のもつ背景や問題点について理解したことを記入している。 	レポート・報告書 レポート・報告書
					◎	<ul style="list-style-type: none"> 課題を追究し、考察した過程や結果を、自分なりの工夫をして分かりやすくまとめている。 	レポート・報告書
	発表(4～5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 課題追究学習についての発表を通じ、他の生徒とともに自分の発表についての評価や感想をワークシートに記入する。 	◎			<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもって、意欲的に他の生徒の発表内容を聞いている。 他の生徒の発表内容を参考にしながら、自分の課題について理解したことを記入している。 	観察 ワークシート
					◎	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価を記入しているとともに、発表に当たって、工夫した内容を記入している。 	ワークシート
まとめ(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題追究学習についての反省や今後の課題等についてワークシートに記入する。 	◎			<ul style="list-style-type: none"> 課題の望ましい解決の在り方について、他の生徒の発表を参考にし、最終的に判断した内容を記入している。 自分の課題追究学習についての反省や、今後、取り組んでみたいと考える課題とその理由について記入している。 	ワークシート	

※1については、「H16公 6」の「(イ)ワークシートによる評価方法」を参照

科目名	倫理	大項目	(2) 現代と倫理	中項目	現代の諸課題と倫理		
目標	現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。						
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解			
内容のまとめりごとの評価規準(大項目)	現代に生きる人間が直面する諸課題に対する関心を高め、倫理的視点から意欲的に追究し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。	現代に生きる人間が直面する諸課題について、多面的・多角的に考察し、倫理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方についてどうかわるかを広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。	現代に生きる人間が直面する諸課題に関する諸資料を収集・活用し、先哲などの考え方や生き方を自らの思索を深めるために活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代に生きる人間が直面する諸課題について、自己の生き方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。			
評価規準の具体例(中項目)	<ul style="list-style-type: none"> 現代に生きる人間が直面する諸課題に対して倫理的視点から関心が高まっている。 現代に生きる人間が直面する諸課題を倫理的な見方や考えから意欲的に追究している。 現代に生きる人間が直面する諸課題について、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として主体的に考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代に生きる人間が直面する諸課題を、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として、見いだしている。 現代に生きる人間が直面する諸課題について、倫理的な見方や考えから多面的・多角的に考察している。 他者と共に生きる自己の生き方について探究し、主体的かつ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した資料の中から、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題を探究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 現代に生きる人間が直面する諸課題を、倫理的視点から追究し考察した過程や結果をノートなどにまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人間の尊厳と生命への畏敬」について、人間の存在や人間の力を超えたものの観点から、人間の尊厳の根拠や生命の深遠さを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 			
中項目	指導段階	学習活動	評価の観点	学習活動における具体的評価規準	評価方法		
			関 思 技 知				
現代の諸課題と倫理	ガイダンス(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 課題追究学習のねらいや学習の進め方について理解する。 「死」について取り上げた新聞記事をクラス全体で読み、それについての感想を数人の生徒が発表する。 「死」に関する既習事項の整理と、自分の「死」について、①自分自身は、②身近なものは、③第三者は、それぞれどのようなとらえ方をするかをワークシートにまとめる。 	◎		「死」のとらえ方に対する、立場による相違や、既習事項との関連、「死」と自己とのかかわりについての考察を通して、現代に生きる人間の死にかかわる諸課題に対する関心が高まっている。	ワークシート	
	グループでの課題追究と討議(4時間)	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を踏まえ、現代社会における人間の「死」にかかわる諸問題の中から各グループで追究学習するテーマを2～3つ選び、そのテーマを選んだ理由と課題について追究の計画をワークシートにまとめる。 設定した課題にかかわる適切な資料を収集し、それらの課題についてわかりやすくまとめている。 グループ討議の後、全体での発表方法を決め、発表のための配布資料や提示資料を準備する。 		◎	グループ内で選んだテーマについて、それぞれのテーマが抱える課題について整理し、追究学習の計画をたてている。	ワークシート	
					◎	自己の生き方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	ワークシート
	発表(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの発表内容を記録し、自分のグループのまとめとの違いや感想やさらに調べてみたいことをワークシートにまとめる。 	◎		他のグループの発表について公正に評価を行うとともに、自分のグループの発表に対しても適切に自己評価をしている。	ワークシート	
				◎		生命倫理に関して、さらに調べてみたいことを記入している。	
		<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの実施(学習内容に沿って作成した定期テスト) 		◎	◎※2	授業で取り上げていない題材をもとにした設問において、課題追究学習の成果を踏まえて、多角的・多面的に考察している。	ペーパーテスト
					◎	授業で取り上げた内容を理解し、その知識を身に付けている。	

※2については、「H16公 7」の「(ウ)テストによる評価方法」を参照

科目名	政治・経済	大項目	(3)現代社会の諸課題	中項目	国際社会の政治や経済の諸課題				
単元目標	政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を追究する学習を行い、望ましい解決の在り方について考察させる。								
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解					
内容のまとまりごとの評価規準(大項目)	国際社会の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、望ましい解決の在り方を客観的に考えようとしている。	国際社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	国際社会の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに望ましい解決の在り方を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	国際社会における日本の立場と役割など、国際社会の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し、その知識を身に付けている。					
評価規準の具体例(中項目)	・現代における国際社会の諸課題から選択して取り上げた課題に対する関心が高まっている。 ・選択した課題について望ましい解決の在り方を客観的に考えようとしている。	・現代における国際社会の諸課題から選択して取り上げた課題を政治や経済と関連させながら多面的・多角的に考察している。 ・選択した課題について対照的な考え方を対比させながら公正に判断している。	・現代における国際社会の諸課題から選択して取り上げた課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から、課題を追究し望ましい解決の在り方を考える学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。	・近年国際社会における日本の経済的比重の高まりとともに、日本の果たすべき政治的、経済的立場と役割は重くなり、海外からの期待も大きくなってきていることを理解し、その知識を身に付けている。					
中項目	指導段階	学習活動	評価の観点			学習活動における具体的評価規準	評価方法		
			関	思	技			知	
国際社会の政治と経済の諸課題	ガイダンス(2時間)	・ワークシートを使用して既習事項を整理し、新しい視点で考察する。				◎	新しい視点で既習事項を見つめ直したことをワークシートに記入している。	ワークシート	
		・ODA事業によるダム建設のビデオを視聴し、ODAについて調べてみたいことと、その理由をワークシートに記入する。	◎※3					ODAについて調べてみたいことと、その理由をワークシートに記入している。	ワークシート
	調べ学習と中間発表会(4時間)	・ODAの諸課題について前時に考えた内容と比較して、ワークシートに記入する。				◎	ODAの諸課題についての見方や考え方が深化・発展した内容をワークシートに記入している。	ワークシート	
		・グループ毎にロールプレイングに必要な資料の収集や選定について話し合いを行う。	◎※4					追究の様子やグループでの話し合いにおいて課題を主体的に追究している。	観察
		・中間報告会を実施し、収集した資料の一覧表を提出させる。			◎			様々な資料をメディアを通して収集し、その収集方法と入手先についての一覧表を作っている。	ワークシート
	ロールプレイング(2時間)	・他のグループの主張を記録し、自分のグループの主張との違いや疑問点をワークシートに記入する。			◎			どのような資料を収集、選定し、どのように考察し、どのような根拠で結論を得たのか発表している。	観察
					◎			発言の仕方や内容が適切になされている。	観察
				◎				ちがう考えをもつ他者についても公正に評価している。	自己評価
		・どのグループの主張が最も説得力があったかを他者評価カードに記入する。			◎			ODAの諸課題について自分と他人の意見の差異を多角的な観点から考察し、ワークシートに記入している。	ワークシート
	反省会(1時間)	・ODAの在り方や課題について新たに考えたことをワークシートに記入させ、それをもとに発表する。		◎※5				国際社会における日本の立場と役割について様々な考え方を踏まえ、最終的に判断した内容をワークシートに記入している。	ワークシート
まとめ(1時間)	・国際社会における日本の立場と役割について今後の取り組んでみたいと考える課題とその理由についてワークシートに記入する。			◎			国際社会における日本の立場と役割について今後の取り組んでみたいと考える課題とその理由についてワークシートに記入している。	ワークシート	
	・ペーパーテストの実施(学習内容に沿って作成した定期テスト)					◎	授業で取り上げた内容を理解し、その知識を身に付けている。	ペーパーテスト	

※3と※5については、「H16公 5」の「(7)【関心・意欲・態度】について」と「(イ)【思考・判断】について」のそれぞれを参照

※4については、「H16公 5」の「(7) 観察による評価方法」を参照

(2) 観点別評価の進め方

ア 考え方

(ア) 【関心・意欲・態度】について〔政治・経済の評価計画表※3の事例〕

評価規準の「ODAについて調べてみたいことと、その理由をワークシートに記入している。」は、ODAについて関心のあることや課題として調べてみたい理由として、ここでの学習の成果をさらに発展させた内容を記入している場合を、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。

また、「努力を要すると判断される」状況（C）と評価された生徒への指導の手だてとしては、ODAについて、生徒にかかわりのある事柄や身近で具体的な事柄を取り上げて関心を喚起し、ワークシートに記入させる。

(イ) 【思考・判断】について〔政治・経済の評価計画表※5の事例〕

評価規準の「国際社会における日本の立場と役割について様々な考え方を踏まえ、最終的に判断した内容をワークシートに記入している。」は、国際社会における日本の立場と役割について、他の生徒の発表や議論の内容を吟味するとともに、自分の考えを再検討し、公正な判断をした内容を記入している場合を、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。

また、「努力を要すると判断される状況」（C）と評価された生徒への指導の手だてとしては、公正に判断するために参考になった考え方、議論の内容をいくつか上げさせ、ワークシートにまとめさせる。

イ 評価方法の具体例

(ア) 観察による評価方法〔政治・経済の評価計画表※4の事例〕

〔具体の評価規準及び評価の観点〕

「追究の様子やグループでの話し合いにおいて課題を主体的に追究している。」【関心・意欲・態度】

〔評価方法〕

追究の様子やグループ討議の観察

〔留意事項〕

追究の様子やグループでの話し合いなどから新たな課題を見だし、さらに調査や作業の範囲を広げながら追究している場合を、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。

「努力を要すると判断される状況」（C）と評価された生徒への指導の手だてとしては、机間巡視や中間報告会後の助言の機会を利用し、課題について疑問に思ったことがないかなどを問いかけて焦点化したり、問題解決の見通しをもたせるようにする。

チェックリスト表

チェック項目	生徒A	生徒B	生徒C
図書館などを積極的に利用している		○	◎
粘り強く調べている		○	◎
インターネット等を利用して友人と協力して調査している			◎

生徒の具体的な行動を表す言葉にする。

観察により主体的に追究していると判断された生徒には○を記入する。また、十分満足できると判断された場合は◎を記入する。

調べ学習の場面では、具体的な行動や発言を事前に想定し、チェックリスト表を作成しておくことで、的確な評価をすることができる。

(イ) ワークシートによる評価方法〔現代社会の評価計画表※1の事例〕

〔具体の評価規準及び評価の観点〕

「自己とのかかわりにおいて主体的に追究できるような課題を設定するとともに、設定に至る過程や課題追究学習の計画等について、適切に記入している。」【思考・判断】

「自己評価を記入しているとともに、発表に当たって、工夫した内容を記入している。」【資料活用 of 技能・表現】

〔評価方法〕

ワークシートの記述の点検・分析

〔評価の実際〕

課題や課題を追究したい理由と課題追究学習の計画等の内容が適切なものになっているか分析する。

自己評価については、①～③の項目への記入がなされていること、さらに、④の記述内容から、自分なりの工夫をして分かりやすく説明しているかを分析する。

ワークシート

現代社会「現代に生きる私たちの課題」－ 課題追究学習－
年 組 番 氏 名 _____

○課題として設定した内容と設定理由を記入しよう

課題として設定した内容	課題を追究したい理由

○課題追究学習の計画を立ててみよう

時	月日(曜)	調査のねらい	調査・研究内容	調査方法

○自己評価－自分の発表を評価してみよう

①資料を分析した内容を分かりやすく説明できた。 はい 普通 いいえ

②課題追究した結論を分かりやすく説明できた。 はい 普通 いいえ

③自分の課題とのつながりを分かりやすく説明できた。 はい 普通 いいえ

④発表にあたって、分かりやすい説明をするために工夫したこと。

〔留意事項〕

課題として設定した内容と課題を追究したい理由や課題追究学習の計画が関連付けられている場合を、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。

「努力を要すると判断される」状況（C）と評価された生徒への手だてとしては、様々な観点から、設定した課題について考えられることなど、具体的な助言を行い、どのような関心から課題を設け、何がわかったのか、何が自己の課題とのつながりなのかを再度考察させワークシートにまとめさせる。

自己評価については、①～③に記入しており、かつ、④について、工夫した内容を具体的に記入している場合を、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。「努力を要すると判断される」状況（C）と評価された生徒への手だてとしては、どのような資料を用い、どのような方法で追究し、何を考え、自分はどういう結論を出したのかなど、発表内容の要点を確認させるとともに、発表原稿の作成について助言し、次の機会に生かせるようにする。

(ウ) テストによる評価方法 [倫理の評価計画表※2の事例]

○わが国では1997年6月に臓器移植法案が成立し、同年10月より施行されています。次の脳死臓器移植に関する4つの資料を見て、設問に答えなさい。

資料1 あなたは脳死臓器移植の意思がありますか

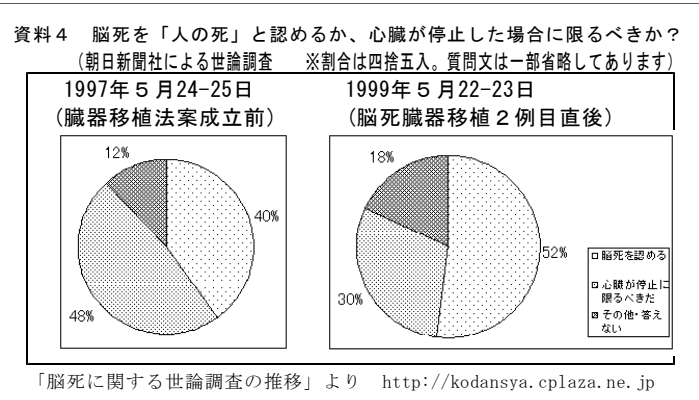
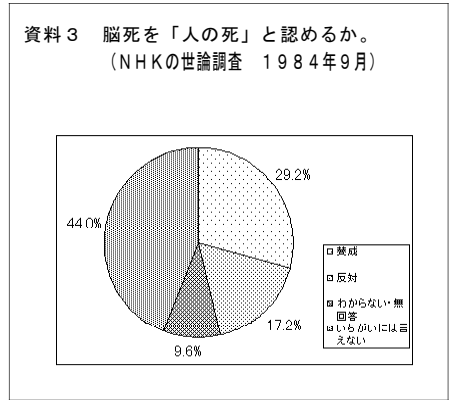
項目	%
提供したい	16.0
どちらかといえば提供したい	16.5
どちらかといえば提供したくない	10.2
提供したくない	25.2
どちらともいえない	27.6
わからない	4.5

「臓器移植に関する世論調査」2000年 内閣総理大臣広報室

資料2 家族の脳死臓器移植に対する意思を尊重しますか

項目	%
尊重する	49.4
たぶん尊重する	19.4
おそらく尊重しない	4.9
尊重しない	4.6
そのときにならないとわからない	21.7

「臓器移植に関する世論調査」2000年 内閣総理大臣広報室



- 問1 脳死による臓器の提供についての「本人の自分自身に対する考え方」と「家族の意思に対する本人の考え方」の違いについて、資料1と資料2から、わかることを書きなさい。
- 問2 わが国では、臓器移植法案が成立し、脳死による臓器移植ができるようになりましたが、そのことで私たちの生活にどのような変化があったと考えられるか、資料1～4を参考にあなたの考えを書きなさい。

[具体的評価規準及び評価の観点]

「授業で取り上げていない題材をもとにした設問において、課題追究学習の成果を踏まえて、多角的・多面的に考察している。」【思考・判断】

[評価方法]

テストの解答の点検・分析

[留意事項]

授業で取り上げた題材からの出題では、「知識・理解」を問う問題となるので、授業で取り上げていない題材から出題をする。

問1は、資料1と資料2からわかる「本人」と「家族」に対する考え方の違いについて書かれていれば「おおむね満足できると判断される」状況(B)とする。さらに、二つのグラフの数値を比較して答えるなど特徴的なことを整理して書かれていれば、「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する。

問2は、資料1～4から、私たちの生活にどのような変化があったか書かれていれば「おおむね満足できると判断される」状況(B)とする。さらに、具体的な事例を取り上げ、課題追究学習で設定した課題につなげて考察した内容を解答していれば、「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する。

(3) 観点別評価の総括

ア 総括についての考え方

観点別学習状況の評価の総括としては、表1の①、②、③と表2の①、②の組合せによる方法が考えられる。

表 1

① 中項目ごとの観点別学習状況の評価から学年末の観点別学習状況の評価をし、その評価をもとに評定に総括する方法
② 中項目ごとの観点別学習状況の評価から各学期の観点別学習状況の評価をし、その評価をもとに評定に総括する方法
③ 中項目ごとの観点別学習状況の評価を数値化し、その数値をもとに評定に総括する方法

表 2

① 観点別学習状況の評価のAを3点、Bを2点、Cを1点というように点数化し、その合計あるいは平均から評定に総括する方法
② 観点別学習状況の評価におけるA、B、Cがどの程度の割合となっているかという出現率から評定に総括する方法

イ 学期末及び学年末の評価への総括

ここでは、参考事例として、表1の③と表2の①の組合せで、観点別学習状況の評価のAを3点、Bを2点、Cを1点と点数化して、その平均点から評定を導き出す方法を示す。

その際、平均点のどこから「5」とするかといった区切りなどについて、表3のように

表 3

観点別学習状況の評価の平均点	1～	1.25～	1.5～	2.5～	2.75～
評 定	1	2	3	4	5

事前に決めておくことが必要となる。また、評定への総括の方法については、各学校において評価方法等を検討し、適切に決めておくことが大切である。

表4は、「H16公 4」ページの政治・経済の評価計画表に基づいて評価した事例であり、この中項目における各観点別学習状況の評価の平均を出している。

さらに、学年末の評定に総括するため、すべての中項目の観点別学習状況の評価の平均を一覧にしたものが表5である。この事例では、学年末の合計が47.7点で、その平均は1.9875点となり、表3に当てはめると学年末の評定は「3」ということになる。

表 4

指導段階	観点別学習状況の評価			
	関	思	技	知
ガイダンス				A
	B			
調べ学習と中間発表会				A
	B			
ロールプレイング			C	
			B	
		B		
		B		
反省会		C		
まとめ	B			
ペーパーテスト				A
合計	6	5	5	9
平均	2.0	1.6	1.6	3.0

表 5

大項目	中項目 (内容のまとまりごと)	観点別学習状況の評価の平均			
		関	思	技	知
(1)現代の政治	ア 民主政治の基本原理と日本国憲法	1.6	1.8	1.9	2.3
	イ 現代の国際政治	2.3	2.1	1.6	1.9
(2)現代の経済	ア 経済社会の変容と現代経済の仕組み	2.3	1.9	1.8	2.4
	イ 国民経済と国際経済	3	2	1.9	1.7
(3)現代社会の諸課題	ア 現代日本の政治や経済の諸課題	1.5	2	1.7	1.8
	イ 国際社会の政治や経済の諸課題	2.0	1.6	1.6	3.0
小 計		12.7	11.4	10.5	13.1
合 計		47.7点			
平均点		1.9875点			